

2015年6月25日

衆議院議長 川端達夫 殿  
参議院議長 山崎正昭 殿  
内閣総理大臣 安倍晋三 殿  
公明党代表 山口那津男 殿  
民主党代表 岡田克也 殿  
共産党委員長 志位和夫 殿  
維新の党代表 松野頼久 殿

## 安全保障関連法案についての声明

日本同盟基督教団 理事長 中谷美津雄  
社会局長 水草修治

現在、国会では安全保障関連法案が扱われています。私どもは以下の理由で、法案が廃案にされることを望みます。

第一に、今般の法案提出、法案可決は、権威の秩序の破壊を意味するからです。

「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。」(新約聖書ローマ書 13章 1節) とあるように、神は、地上に権威を立て、その秩序をもって社会を治めることをよしとされます。

わが国における権威の序列は、上位から、第一に「国民の総意」、第二に「日本国憲法」、第三に国会・内閣・最高裁の三権です。三権は互いに牽制し合い暴走を防ぐ仕組みになっています。ところが、今般、内閣が昨年7月1日に国会を無視して行った「集団的自衛権行使容認」の閣議決定に基づいて提出した「安全保障関連法案」は、上位権威である日本国憲法に対する叛逆を意味しますから、わが国と国民に災いを招きます。

「高ぶりは破滅に先立ち、心の高慢は倒れに先立つ。」(旧約聖書箴言 16章 18節)

第二に、「集団的自衛権行使」は、自衛隊の若者たちをいたずらに危険にさらし、国内にも悲惨をもたらすからです。従来の人道支援派遣においてさえ自衛隊駐留地にはミサイルが何発も撃ち込まれましたが、集団的自衛権発動の新三要件によれば、他国の戦争のために、自衛隊員は従来にも増して危険な地域への兵站を担当することになります。たとえ直接に戦死しなくても、戦地での恐怖は隊員に PTSD を残します。アフガン・イラクの帰還兵は米国で年間 8000 人、毎日 22 名自殺し、今や社会問題となっています。戦争は、兵士たちの人格破壊と家庭崩壊と治安悪化として、国内に跳ね返ってくるのです。

「自分に関係のない争いに干渉する者は、通りすがりの犬の耳をつかむ者のようだ。」(箴言 26 章 17 節)

第三に、政府は「集団的自衛権行使はわが国の存立危機にかかわる場合に限定される」と説明し、特に「日本に来る石油の 8 割が通るホルムズ海峡の機雷掃海」の責任を訴えますが、これは著しく説得力を欠くからです。なぜなら、石油輸入相手第一位のサウジアラビアと第二位 U A E とは、海峡を迂回して石油を運ぶパイプラインを持っており、これに当該海峡経由でない石油を加えれば、75 パーセント確保でき、かつ、備蓄も半年分あるからです。

本当はいったい何を目的とした集団的自衛権行使なのでしょう。参戦することで国家としての威信を高めるためでしょうか。軍需関連産業振興のためでしょうか。私たちは、剣を取らずに平和を作るという道こそ、憲法 9 条をもつわが国としての歩むべき道であると考えます。

「争いを避けることは人の誉れ、愚か者はみな争いを引き起こす。」(箴言 20 章 3 節)

以上